■発行■
2011年3月
vol.16
ファルマバレーセンター
E-Mail mail@ fuji-pvc.jp
URL www.fuji-pvc.jp

「富士山麓から世界へ ～ファルマバレーは、いま!～」

Fuji Pharma Valley

〒411－8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 TEL055－980－6333 FAX055－980－6320
県立静岡がんセンター研究所1階

医看工連携の更なる進展に向けて 慶應義塾大学と事業連携協定を締結

■事業連携協定締結式の様子（左:川勝知事、右:清家塾長）

平成22年12月16日、都内のアルカディア市ヶ谷で、静岡県と慶應義塾大学による医看工連携に関する事業連携協定締結式が行われた。川勝平太知事と清家篤慶應義塾長が、協定書への署名を行った。

川勝知事は挨拶で「慶應義塾大学と連携の協定を結ぶことができ、本当に喜んでいる。医学・看護学・薬学・理工学の学部がある大学との連携は本県の悲願。ここから、人のため世のためになるような地域のアイデンティティーを広げていきたい」と述べた。清家塾長は「川勝知事とは以前から大変ご厚誼を賜っていた仲。調印を交わすことができたのは非常に感慨深い」と述べ、続けて「静岡がんセンターは治療機関としてはもちろん、教育機関としても優れた機能を発揮してきた。既に、がんプロフェッショナル養成プランを通じて大学院生を派遣し、臨床研究における中核的な人材を育成している。今日の連携協定を機に、静岡県と慶應義塾がお互いに保有する資源、強みを活かし、足りない部分は補い合う形で連携を深め、シナジー効果を強めていきたい」と抱負を語った。

締結式では、県を代表して山口建静岡がんセンター総長、同大学を代表して末松誠医学部長が登壇し、それぞれの取組を説明した。

会場には、同センターの研究者のほか、同大学の医看工連携に係る全学部（医学部・看護医療学部・薬学部・理工学部）の学部長が出席、両者の連携に対する期待の高さが伺えた。

今後は、研究者間の意見交換を通じて、個別研究の内容を検討する。同大学との連携によって、ファルマバレーでの新たな開発が進み、大きな成果が生まれることが期待される。

各ページの下には、SPコードが印刷されています。SPコードとは、約800文字の音声コードです。専用読み取り機械に入れると、目の不自由な方でも音声で内容を知ることができます。

さらなる高みへ、第3次戦略スタート

「ファルマバレープロジェクト」は平成23年度から新たなステージに入る。“ものづくり”“ひとづくり”“まちづくり”“世界展開”の4つの視点から「医療健康産業クラスターの形成」をより一層進める第3次戦略計画が始まる。

4つの戦略で産業クラスターを形成

プロジェクトの第3次戦略計画が、静岡産業大学の大坪檀学長を会長とする18人の有識者による検討委員会の審議を経て、県により策定された。

■3回にわたり開かれた検討委員会

計画では、平成23年度から10年間の第3次戦略計画期間を、始動期（第1次戦略計画期間）、成長期（第2次戦略計画期間）を経て、自律的発展に向けた期間と位置付けている。

基本理念は引き続き「世界一の健康長寿県の形成」。「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」「世界展開」の4つの視点から、富士山麓に医療健康産業クラスターの形成を図る。それぞれの戦略の10年後の姿が記されているのも新たな試みのひとつだ。

数値目標を明確化 実践的な戦略計画

4つの戦略に基づき、より具体的な施策が展開されている。

例えば、戦略1の「ものづくり」における研究開発の推進では、静岡がんセンターを中心に進める研究開発のテーマや共同研究を行う大学、研究機関に加え、国の助成事業とそのテーマなどが明記されている。今まで、同プロジェクトが積み上げてきた成果が反映された、より具体的な内容だ。また、医薬品開発件数2剤（治験実施件数）や医薬品・医療機器合計生産金額1兆円などの数値目標も設定した。

こうした戦略、戦術を推進するために、市町や国内外のクラスターとの連携、中核支援機関ファルマバレーセンターの組織体制の充実、広報活動の充実にも力を入れる。

事業の進捗状況は毎年検証し、3年ごとに中間評価を実施する予定だ。10年後、「医療・健康」をキーワードに、「住んでよし、訪れてよし」「生んでよし、育ててよし」「学んでよし、働いてよし」の日本のモデル地域になることを目指し、同プロジェクトは新たなスタートを切る。

「プロジェクト第2次戦略計画」の成果を知事に報告

平成22年12月15日、県庁で、ファルマバレー第2次戦略計画の「評価報告書」が同計画評価委員会の廣部雅昭会長（東京大学名誉教授）から、川勝平太知事に提出された。

■川勝知事（左）に報告書を手渡す廣部会長

同計画は、18年度に策定され、19～22年度までの4年間にわたって実施された。廣部会長は「世界トップクラスのがん診療拠点の静岡がんセンターを中心に、世界的な研究機関や企業、地元中小企業など幅広い分野の参画を得て、地域に根ざした着実な成果を挙げている」と評価。第3次戦略計画の策定に向けて温泉等リゾート資源を活用した健康地域づくりや、研究者や技術者の育成等を提案した。川勝知事は「ファルマバレーは大きく評価されている。県の財産としてさらに発展させたい」と期待を述べた。

ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画

第3次戦略計画 4つの戦略

戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”

プロジェクトに参画する大学や研究機関は、患者・家族及び医療従事者のニーズに基づいた最先端の研究開発をより一層推進します。また、研究成果を活用した製品化を進め、世界市場への販売に取り組む企業の支援を強化します。

- 戦術1:研究開発の推進
- 戦術2:地域企業の世界展開の支援

10 YearsAfter

医療健康産業を地域の産業の一つの柱として、地域企業の活性化がはかられ、地域の発展に寄与します。

戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”

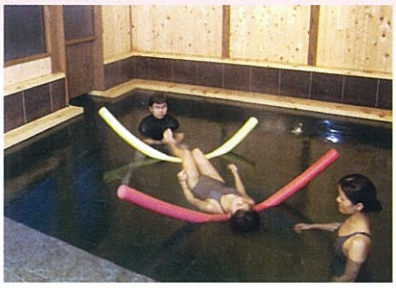
静岡がんセンターが実施してきた患者・家族の視点に立った質の高い医療従事者の育成を進めます。また、首都圏や地域の大学等との連携を進め、研究者・技術者の育成を図り、プロジェクトに関係する高度な産業人材の育成人数の倍増を目指します。

- 戦術1:質の高い医療人材の育成と研修システムの充実
- 戦術2:医療現場のニーズを事業化する産業人材の育成

10 YearsAfter

患者・家族が満足できる質の高い医療サービスや、専門性の高い医療技術を提供し、真に医療現場が必要とする製品を創出する優秀な人材がこの地域で活躍しています。

戦略3 健康サービスが充実し高次都市機能が集積した“まちづくり”



市町と連携して、企業や研究施設の誘致を積極的に進めるとともに、コンベンション機能の充実などにより、人が集い、賑わう都市空間の創出を図り、温泉や食材などの観光資源を組み合わせた健康サービスと癒しの提供など、健康をテーマとした地域づくりを目指します。

- 戦術1:医療健康分野の産業集積
- 戦術2:健康をテーマとした地域づくり
- 戦術3:人が集まる地域づくり

10 YearsAfter

健康サービスが充実するとともに、高次都市機能が集積し、住む人や訪れる人にとって魅力ある快適な都市圏が形成されています。

戦略4 “世界展開”の推進

人・モノ・情報が世界から集まるとともに、プロジェクトから生まれた製品、システムやノウハウが世界に広がるような、日本の医療健康産業クラスターのモデル地域となることを目指します。

- 戦術1:世界展開に向けた取組の充実

10 YearsAfter

世界の基準を考慮した製品開発を行う地域企業が増大し、“Made in Mt. Fuji”の製品や仕組みが世界に広く行きわたっています。

医療健康産業クラスターの構築に向けて—静岡がん会議2010を開催

平成23年2月19日、静岡がんセンターで「静岡がん会議2010」が開催された。

今年度は「医療健康産業クラスターの構築に向けて」をテーマに、会議の前半ではファルマバレープロジェクトの推進に密接な関係を持つ省庁から国の施策動向が発表された。

会議後半は、有力な医療健康関連産業クラスターとして知られる、浜松、仙台、福島、横浜、大阪、神戸、久留米のクラスター推進者がそれぞれの地域での取り組みを発表した。

会場にはファルマバレーに参画する地元企業のほか、国内のクラスター施策の動向に関心を持つ首都圏の関係者等約200人が詰めかけ、大変な活気となった。

また当日は、通常入室できない陽子線治療施設の視察ツアーも開催された。ツアー参加者は、陽子線治療科の村山重行部長の説明で同センターの先進医療への理解を深めた。

各省庁の発表テーマ

文部科学省科学技術・学術戦略官　増子宏氏
「今後の地域イノベーション創出に向けた取組」

経済産業省医療・福祉機器産業室長　竹上嗣郎氏
「医療機器産業に関する施策の現状と今後の方向性について」

(独)医薬品医療機器総合機構審議役　重藤和弘氏
「医療機器の審査の迅速化に向けて」

■経済産業省の新規事業を説明する竹上氏

Close up

グローバルビジネス勉強会を開催

■海外展開のノウハウを学ぶグローバルビジネス勉強会

ファルマバレーセンター(PVC)は、"Made in Mt. Fuji"をテーマに平成22年12月より「グローバルビジネス勉強会」を8回シリーズで開催した。これは、プロジェクトを通じてベッドサイドのニーズに応じたモノづくりに取り組んできた地元企業の多くが、海外への販路開拓を思うように進められない状況を解決するためのもの。

PVCの白井文晴コーディネータの人脈で集めた、「アメリカのバイオビジネスの事情」に精通し海外で活躍した企業OBや、世界展開を進める島津製作所、協立電機、そしてベンチャー企業から上場を果たしたGLサイエンス等を招き、事例説明と意見交換が行われた。勉強会には地元企業の経営者らが数多く参加し、講師らに次々に質問していた。PVCはこうした勉強会をきっかけに、地元企業の世界展開を後押しする方針だ。

「Made in Mt. Fuji」を世界に売る！！—Mt. Fuji Channelが完成

ファルマバレーセンターの製品紹介のホームページサイト「Mt. Fuji Channel」が平成22年12月に完成し、公開された。「Mt. Fuji Channel」は、ファルマバレープロジェクトから生まれた製品のほか、専門家の評価を受けた地元企業の部品・製品についても広く掲載し、「1個でも、1円でも多くの売上を目指していく」ためのサイトで、日本語・英語のほか中国語やハングルのページが設けられ、世界に向けたPRを行っている。

今後、PVCは、国内外の医療健康関連産業クラスターに呼びかけ、各クラスターの製品も掲載することで「医療関連といえば、Mt. Fuji Channel」と認識されるようなサイトを目指している。

URL　http://mtfuji-channel.fuji-pvc.jp

Made in Mt. Fuji

■"Made in Mt.Fuji"のトレードマークも完成した

■問合せ　ファルマバレーセンター
TEL055-980-6333　fax055-980-6320　E-mail mail@fuji-pvc.jp
※掲載は無料です。ただし、専門家による技術評価を受けていただきます。